

第1回医療従事者向け研修 2022.12.1 online

Child Death Review

予防のための子どもの死亡検証

沼口 敦

名古屋大学医学部附属病院 救急・内科系集中治療部 病院講師

日本小児科学会 予防のための子どもの死亡検証委員会 委員長

R4- 厚生労働科学研究費補助金事業「子どもの死を検証し予防に活かす包括的
制度を確立するための研究」 班代表

おことわり

- 本日は、チャイルド・デス・レビューにかかわる一研究者としての立場から、個人的な意見をお話します。
- 厚生労働省等の官公庁や地方自治体等の見解ではないことにご留意ください。

子どもとは

• 何歳までが子ども？



幼稚園/保育園児まで？



小学生まで？



中学生まで？

14歳まで？ 19歳まで？

	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳
第1位	先天奇形等	先天奇形等	悪性新生物	自殺	自殺
第2位	呼吸障害	悪性新生物	不慮の事故	悪性新生物	不慮の事故

子どもとは

- 『こども』とは，心身の発達の過程にある者をいう。

こども基本法（第二条）

- 児童とは，18歳未満のすべての者をいう。

子どもの権利条約（第一条）

- 児童（一八歳に満たない者をいう。）

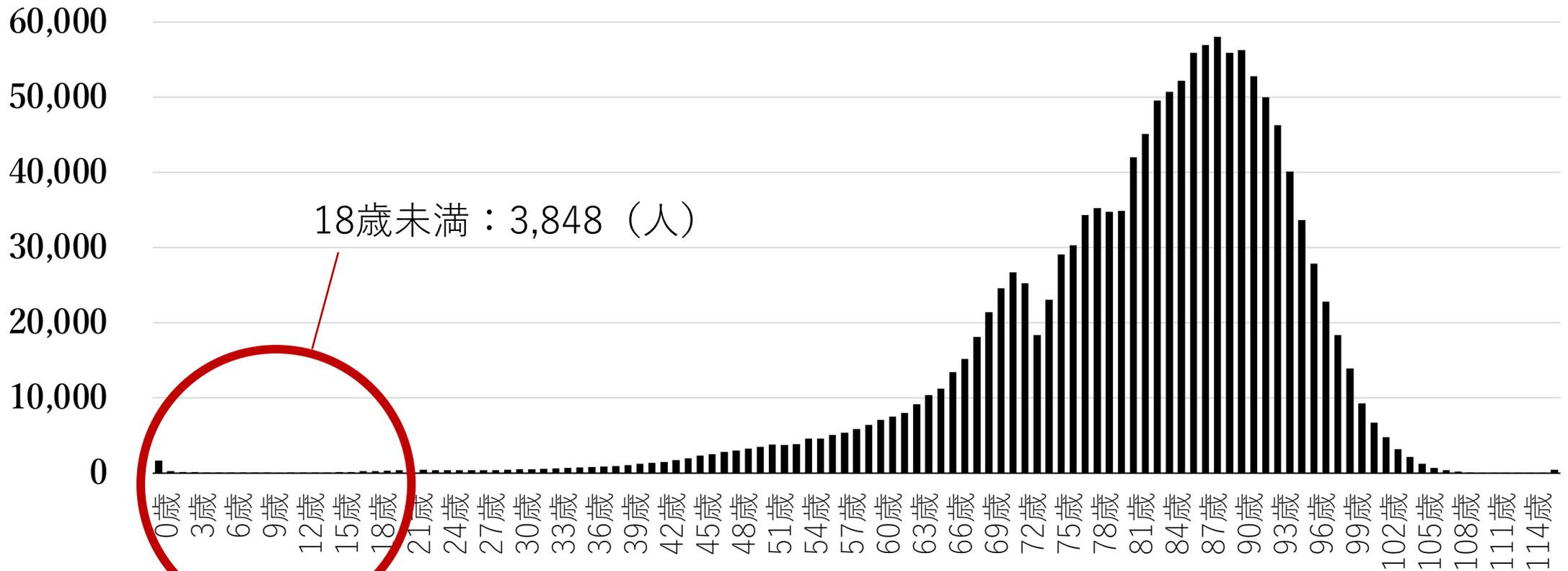
児童虐待防止法（第二条）

わが国の子どもへの死亡

- ➡ 1. わが国の子どもへの死亡
- 2. CDR (Child Death Review) とは何か
- 3. CDRで行われる検証
- 4. まとめ

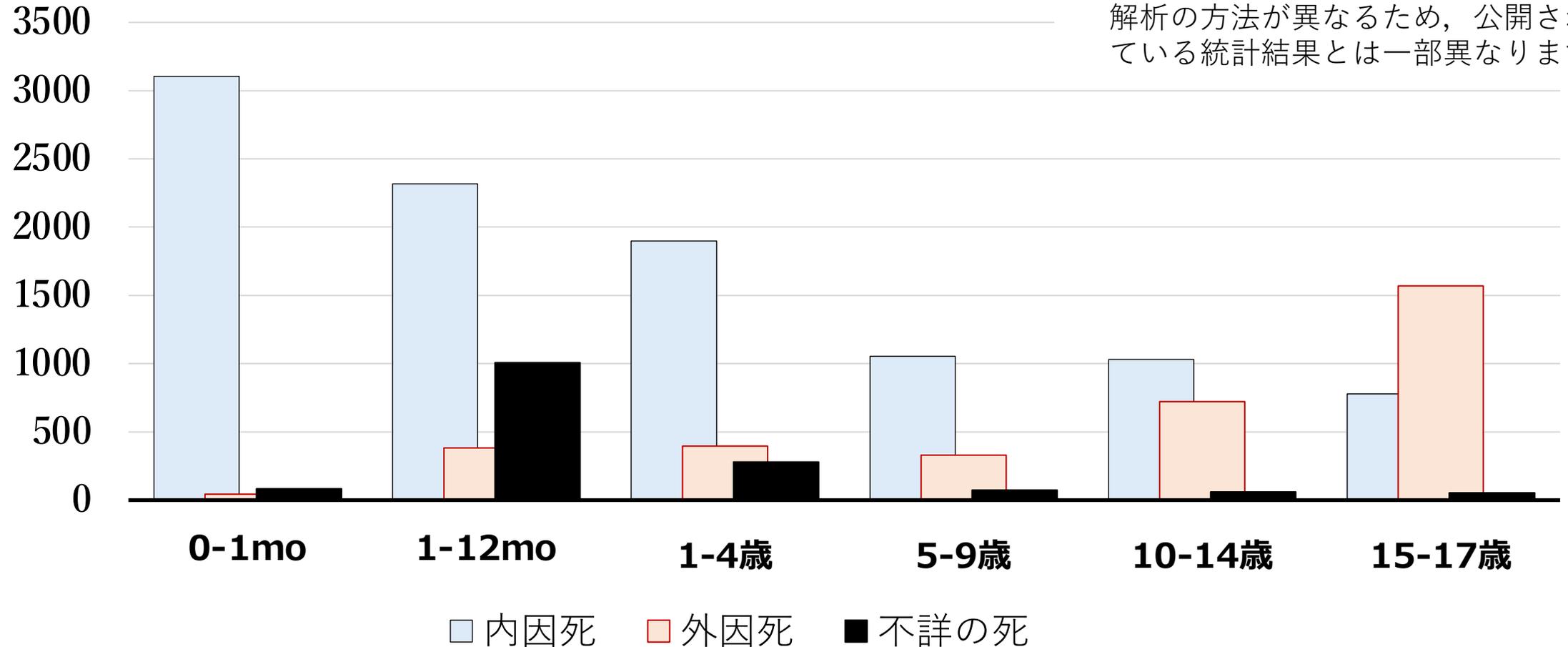
年齢別死亡数（2019年統計）

• 1年間の死亡数 = 1,381,093（人）



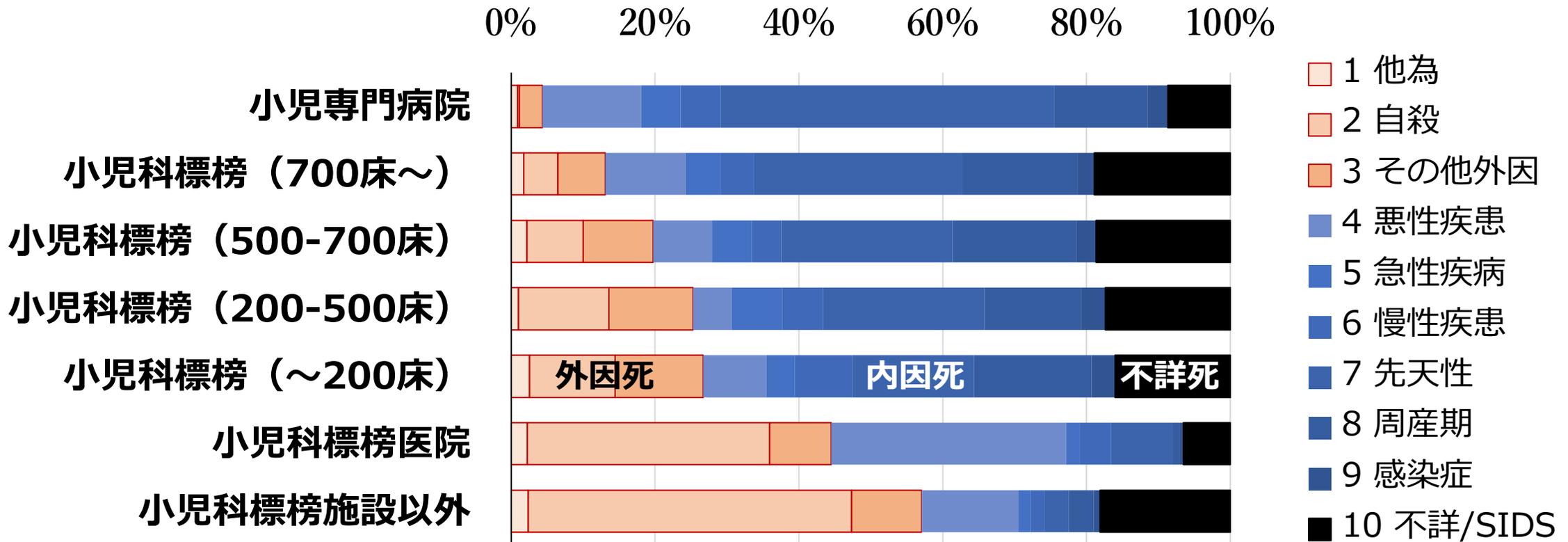
年齢によって死因（の種類）は異なる

※ ただし、統計資料とは分類の基準、解析の方法が異なるため、公開されている統計結果とは一部異なります。



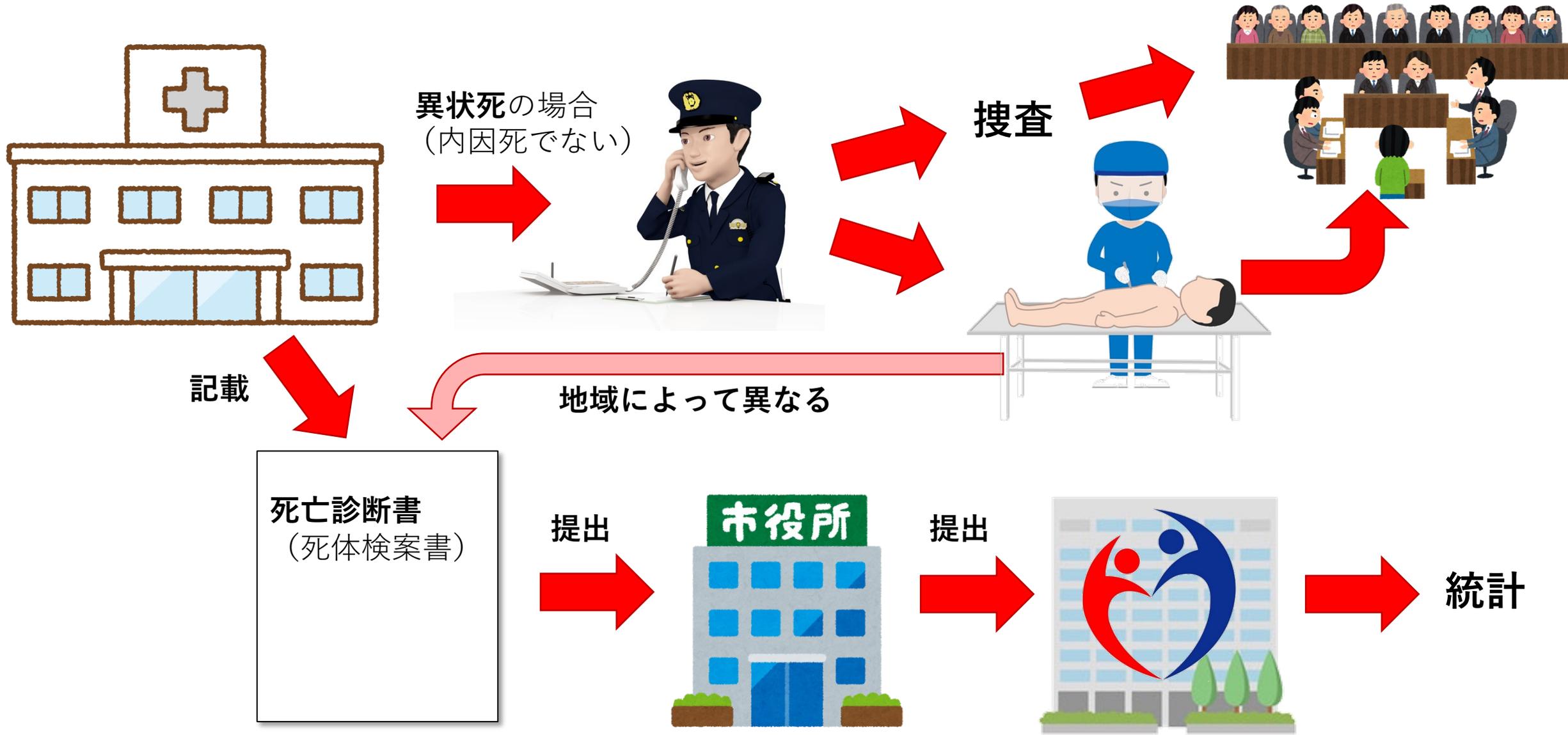
人口動態統計の独自解析による, 2017-2020年 (n=15,179)

病院規模による死因の違い



人口動態統計の独自解析による。2017-2020年 (n=15,179)

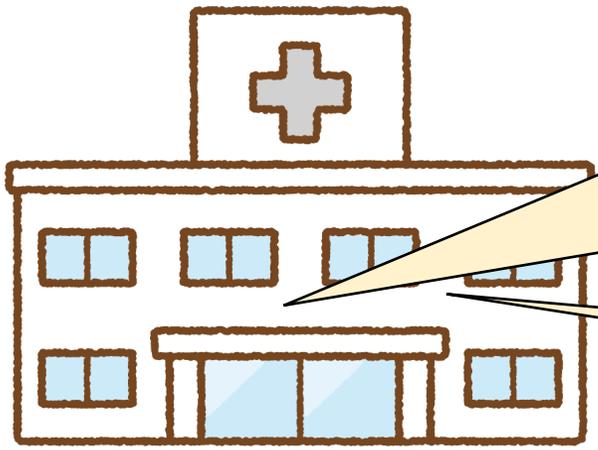
(子どもが) 死亡した時に行われること



(子どもが) 死亡した時に行われること

死因がよく
分かりません

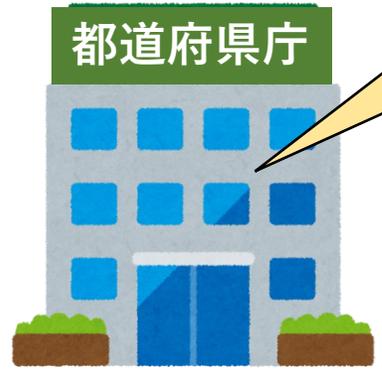
調べましょう!!



記載

死亡診断書
(死体検案書)

提出



捜査



統計



CDR (Child Death Review) とは何か

～ 10分でわかる CDR ～

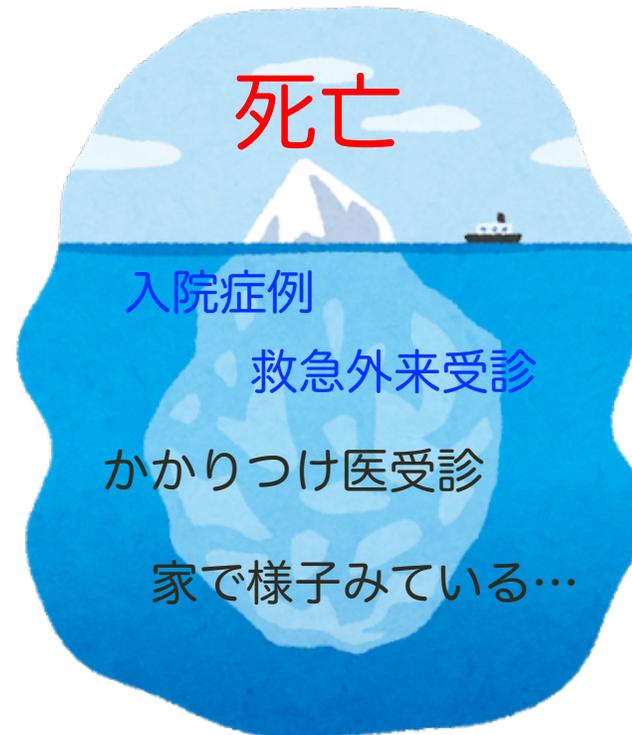
1. わが国の子どもの死亡
- ➡ 2. CDR (Child Death Review) とは何か
3. CDRで行われる検証
4. まとめ



チャイルド・デス・レビューとは？

1-1. 社会における子どもの死亡とは

- 子どもの死は比較的まれな事象ではありますが、氷山の一角であり、死亡に至らなかった事例は数多くあります。
- **1人の死亡**が起きた場合、
25人が入院し、
925人が救急外来で治療を受け
数えきれない数の子どもたちが
同様の軽度な症状を生じている
とされています。



啓発資料「チャイルド・デス・レビューPart1：入門編」
(沼口, 山岡, 内田, 2021/1/19)
より抜粋

チャイルド・デス・レビューとは？

1-2. 子どもの死を検証する目的

予防のための子どもの死亡検証

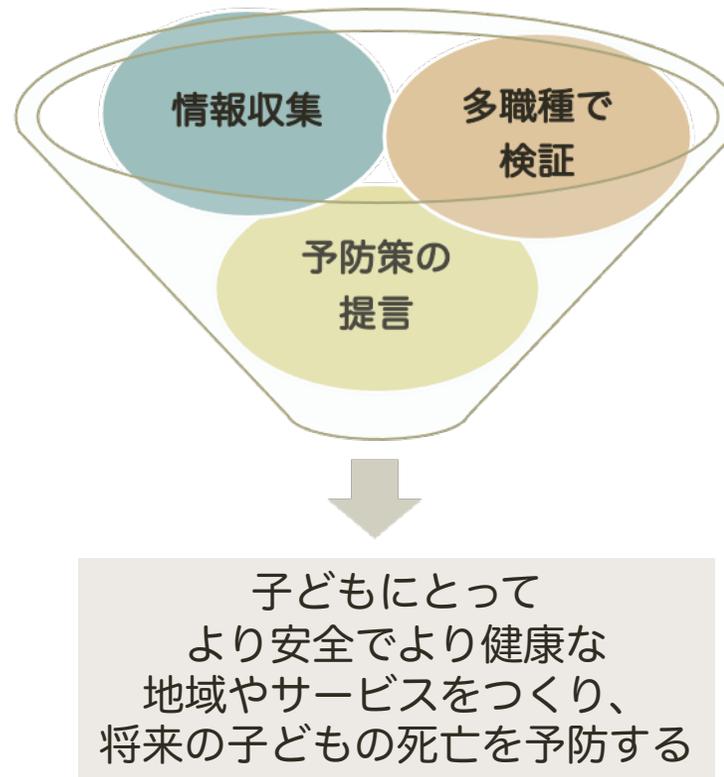
チャイルド・デス・レビュー

(Child Death Review : CDR) は

子どもが死亡したあとに、
多職種の機関や専門家（医療、警察、
行政、福祉関係者等）が

- ①子どもの死に至る**直接・間接的な
情報を収集し**
- ②**予防可能な要因について検証し**
- ③**効果的な予防対策を提言する**

ことで、**将来の子どもの死亡を
減らす**ことを目的に行います。



啓発資材「チャイルド・デス・
レビューPart1：入門編」
（沼口，山岡，内田，2021/1/19）
より抜粋

チャイルド・デス・レビューとは？

1-3. あくまでも、**予防のため**に行うもの

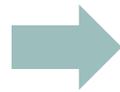


責任追及
のため？

〇〇のせいだ！

相談したのに！

なんで対応
しなかったの？



予防に繋げる
ため

今度からは
こう対応するぞ！

相談や連絡の
ルールを作ろう！

お互いの考
え方を学べ
たなあ



啓発資材「チャイルド・デス・
レビューPart1：入門編」
(沼口, 山岡, 内田, 2021/1/19)
より抜粋

チャイルド・デス・レビューとは？

1-4. CDRが対象とするもの

全ての子どもの死亡を対象とします

病気による死亡（内因死）

感染症、白血病、先天性心疾患など

病気以外の死亡
（外因死）

交通事故、自殺、虐待など

死因が明らかでない死亡

- 既存の検証制度には、「子どもの虐待重大事例検証」、「教育・保育施設等事故報告検証」、「学校事故検証」、「自殺といじめの関連検証」、「消費者生活用製品に係る重大製品事故」、「医療事故調査制度」、などがあります。
- 既存の検証制度との違いは、特定の死因を対象とするのではなく、全死亡事例を対象とします。既存の制度から漏れているような症例も対象に含め、継続的に地域で検証していく点です。



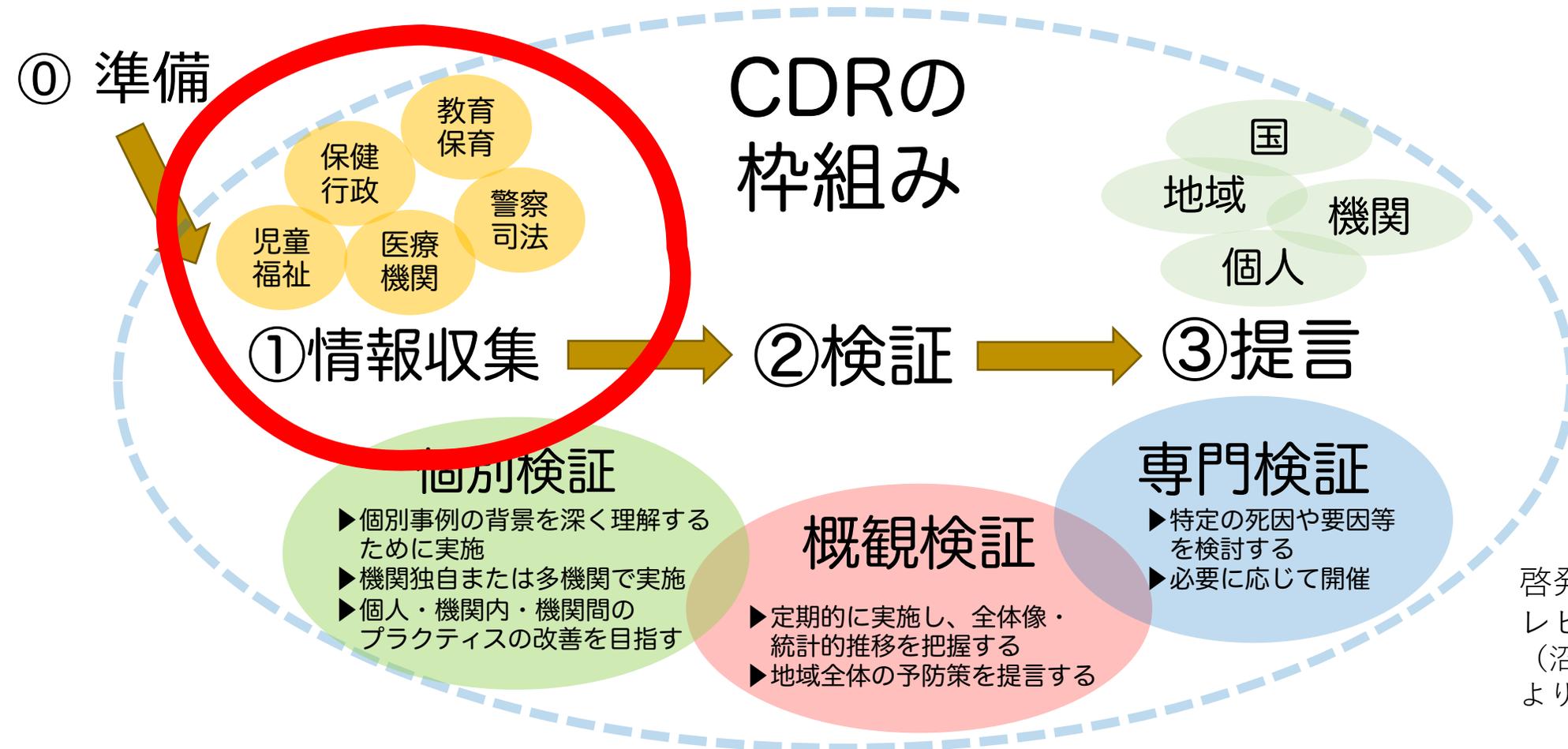
全症例を対象とするのが理想ですが、実際に始める際には集められた事例から開始し、検証のプロセスに慣れていくことも一つの方法です。

啓発資料「チャイルド・デス・レビューPart1：入門編」
（沼口，山岡，内田，2021/1/19）
より抜粋

チャイルド・デス・レビューとは？

1-5. CDRの枠組み

- CDRの枠組みの中に、情報収集・検証・予防策の提言が含まれています。



啓発資料「チャイルド・デス・レビューPart1：入門編」
(沼口, 山岡, 内田, 2021/1/19)
より抜粋

Take Home Message

- CDRは，医療機関の情報を出発点とする。



- **医療機関からの情報** ← 人口動態統計などで補完
 - + (必要であれば) 他機関 (児相, 保健所, 警察etc) 情報
 - + (必要であれば) 他の既存検証等の結果

情報を共有

チャイルド・デス・レビュー

Child Death Review (CDR)

Part2：準備編

(医療機関 / 医療職 対象)

対象者

- ・ 医療機関の専門職で、これからCDRに関わる方
- ・ 情報提供のフォーマットについて学びたい方

令和2度厚生労働科学研究費
補助金事業（沼口班）

作成日：2021年1月19日
担当：沼口、山岡、内田

啓発資材「チャイルド・デス・
レビューPart2：準備編」
（沼口，山岡，内田，2021/1/19）
より抜粋

内 容

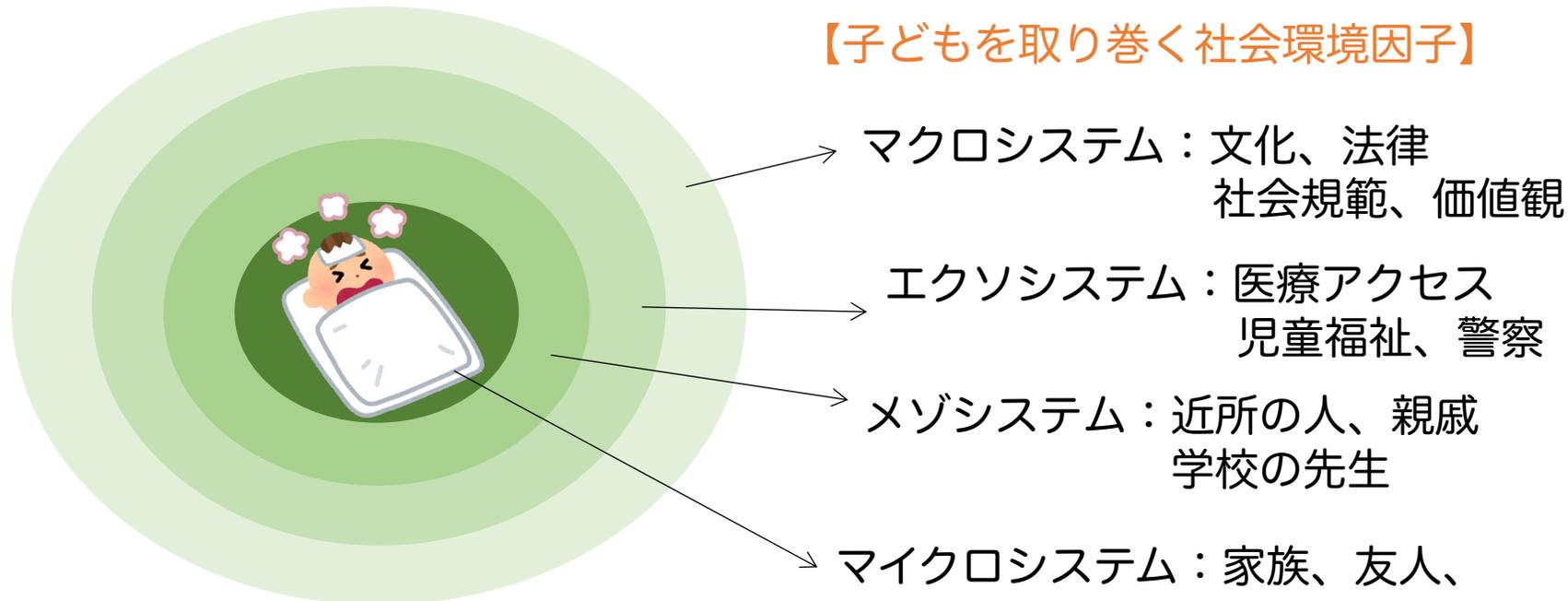
1. 概観検証を行うために必要な準備とは
情報共有で得られるメリット
情報共有する際の注意事項
2. 死亡調査票について
調査票の全体像
3. 記入時の注意事項

啓発資材「チャイルド・デス・
レビューPart2：準備編」
(沼口, 山岡, 内田, 2021/1/19)
より抜粋

1. 概観検証を行うために必要な準備とは

- 死にいたる過程を包括的に理解し、予防策を総合的に検証するには、子どもを取り巻く様々な要因を検討する必要があります。
- そのためには、多職種から情報が不可欠となります。

【子どもを取り巻く社会環境因子】

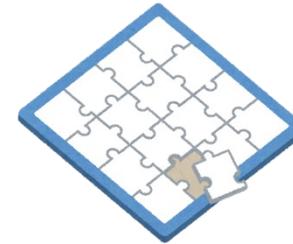


啓発資材「チャイルド・デス・
レビューPart2：準備編」
(沼口, 山岡, 内田, 2021/1/19)
より抜粋

情報を集めることで得られるメリット

多職種の情報を持ち寄ることによって得られるメリットは沢山あります。

- 家族の社会背景・家庭環境をより深く理解できる
- 時系列での経過を把握することができる
- それぞれの職種がどのような情報を持っているのかがわかる
- どのような状況でその時判断したのかが理解できる
- どのような情報があれば、別の判断ができたかが検討できる
- 複数の事例を集めて、傾向を知ることができる



啓発資材「チャイルド・デス・レビューPart2：準備編」
(沼口, 山岡, 内田, 2021/1/19)
より抜粋

課題1：個人情報情報の扱い

- 個人情報保護法（令和3年改正）の適応除外：

「公衆衛生の向上又は児童の健全な育成の推進のために特に必要がある場合であって、本人の同意を得ることが困難であるとき」

「国の機関若しくは地方公共団体又はその委託を受けた者が法令の定める事務を遂行することに対して協力する必要がある場合であって、本人の同意を得ることにより当該事務の遂行に支障を及ぼすおそれがあるとき」

- 公衆衛生の向上，児童の健全な育成の推進のため特に必要か
- （遺族）本人の同意を得ることが困難か
- （遺族）本人の同意により遂行に支障を及ぼすおそれがあるか

個人情報を共有する際の注意事項

個人情報を共有することに、不安や懸念を感じる人も多いと思います。CDRでは、以下の情報は匿名化した上で、検証会議を行います。

【共有しない情報】

- × (子どもの) 名前
- × 生年月日・死亡年月日
- × 病院ほか関与した機関の名前



会議に参加する人は、機密保持の義務があります。

【会議参加の条件】

- × 知り得た情報を会議の外では話さない
- × インターネット・SNSには書かない



啓発資料「チャイルド・デス・レビューPart2：準備編」
(沼口, 山岡, 内田, 2021/1/19)
より抜粋

死亡調査票の全体像

- 全部で16ページあり、構成は以下の3つのパートに分かれています。

Aパート

医療機関で死亡事例
発症したあとに書く

1 2 3

4 5 6

Bパート

個別の関係機関で把握して
いた情報を書く

7 8 9

10 11 12

Cパート

概観検証前に
情報を統合する

13 14

15 16

啓発資料「チャイルド・デス・
レビューPart2：準備編」
(沼口, 山岡, 内田, 2021/1/19)
より抜粋

情報収集の流れ

(医療機関で死亡を確認した場合)

- 死亡確認後、医療機関で **死亡調査票のAパート** をまず記載します

CDRの全体像（地方自治体による運営・調整）

小児死亡の発生
医療機関で
死亡確認

医療機関

症例の
登録

医療情報の
記載
(Aパート)

提出

個別検証

- ・ 情報収集
- ・ 会議日程調整

情報の統合
(Cパート)

集約

概観
検証

連絡

連絡

他機関（警察・福祉など）

把握していた情報
の記載 (Bパート)

提出



各地域で様々なやり方があり、これは一つの見本です。

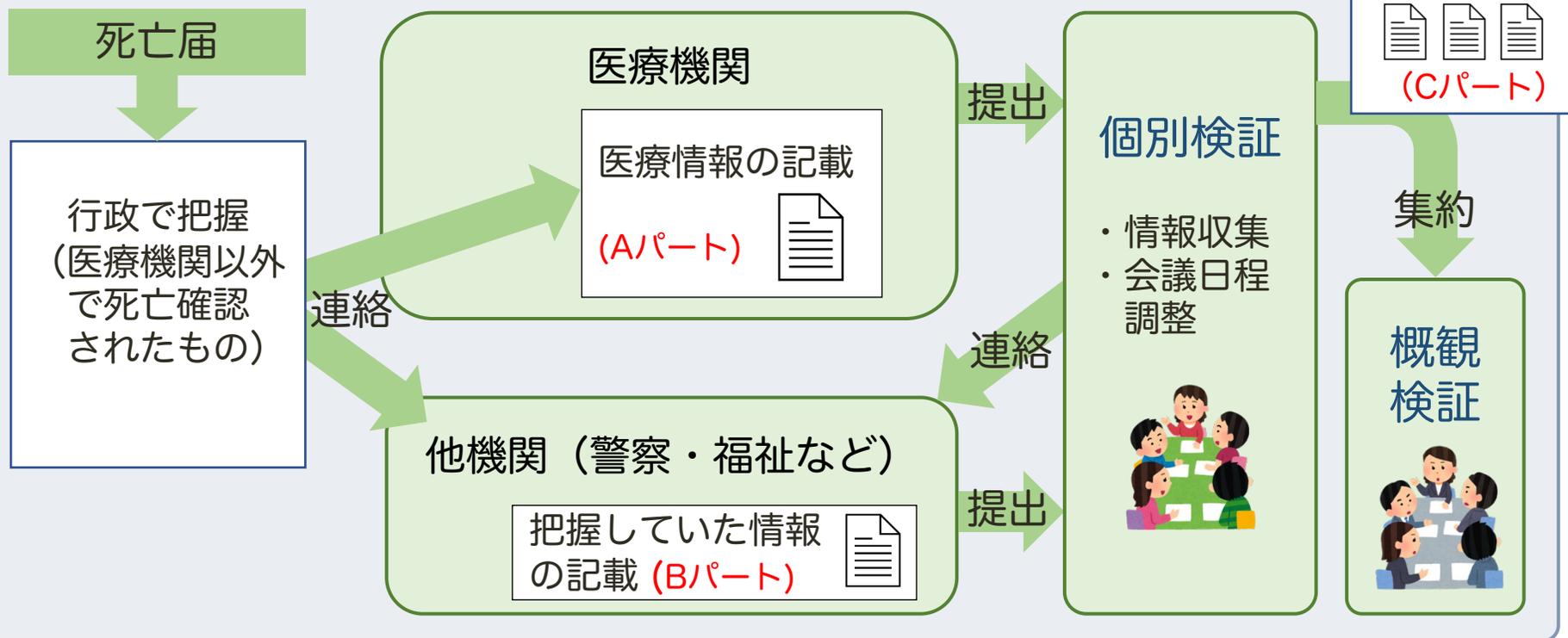
啓発資材「チャイルド・デス・
レビューPart2：準備編」
(沼口, 山岡, 内田, 2021/1/19)
より一部改変して抜粋

情報収集の流れ

(医療機関で把握されていない死亡の場合)

- 要請にしたがって、医療機関で **死亡調査票のAパート** を記載します

CDRの全体像（地方自治体による運営・調整）



啓発資材「チャイルド・デス・レビューPart2：準備編」
(沼口, 山岡, 内田, 2021/1/19)
より一部改変して抜粋

ここからは、実際に記入する際の注意事項を示します

Aパート： カバーページ

- ① 事例No.は、7桁の数字になります
都道府県番号+XX（西暦下2桁）
+番号YYY（3桁）
- ② 検証資料の準備までの段階で照合
する必要が出てくる可能性がある
ので記載してください
（検証会議では共有しません）
- ③ 情報収集の状況把握のために、チ
ェックリストを利用できます

啓発資材「チャイルド・デス・
レビューPart2：準備編」
（沼口，山岡，内田，2021/1/19）
より一部改変して抜粋

照合：情報の有無を問い合わせた
依頼：死亡調査票（Bパート）の記
入を依頼した
提出：死亡調査票（Bパート）
を受け取った
非該当：関係していないことが
確認できた

Child Death Review 死亡調査票（基本票）
予防のための子どもの死亡検証

カバーページ / チェックリスト

年齢/月齢/日齢 歳 月 日

性別 男 女

No.

都道府県 死亡した年 事例番号
番号 (西暦下2桁)

住所地の郵便番号

死亡した都道府県 同じ 異なる

事件番号：
死者の氏名： こうろう れい
生年月日： 2018.1.1 死亡年月日：2021.10.31
死亡したところ（施設名等） まるまる病院

チェックリスト

	連絡先等	照合	依頼	提出	非該当
・死亡診断した医療施設	まるまる病院	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・死亡事象に関係する前医	なし	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
・かかりつけ医	なし	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
・剖検医	まるまる大学法医学講座	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・救急隊	第一救急隊	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・児童相談所	中央児相	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
・保健行政	まるまる市 母子保健課	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
・警察	〇〇県警 捜査一課	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・学校・保育所等	まるまる保育所	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Aパート： A-1 死因について

- ① 死亡診断書・死体検案書に記載されたとおりに記載してください。
- ② 画像検査には、レントゲン検査、超音波検査、CT検査、MRI検査などが含まれます。
- ③ 特記すべき所見を書いてください。
(特に所見がない場合は、「特記すべきことなし」と記入)
- ④ 解剖によって特定された死因、その他の所見を書いてください。
*解剖をした方がよいと思われたが実施できなかった場合、その理由をこちらに書いてください

啓発資料「チャイルド・デス・レビューPart2：準備編」
(沼口, 山岡, 内田, 2021/1/19)
より抜粋

Child Death Review 死亡調査票 (基本票)
予防のための子どもの死亡検証

A1. 死亡の原因, 死因調査

年齢/月齢/日齢 歳 月 日 性別 男 女 No.

死亡診断書 / 死体検案書の情報

I欄	(ア) 直接死因	溺水
	(イ) (ア) の原因	
	(ウ) (イ) の原因	
	(エ) (ウ) の原因	
II欄		影響を及ぼした傷病名等

①

死後検査の情報

② 死亡に直結した診療時の撮影も含む
 画像検査の有無: 有 無 不明

解剖の有無: 有 無 不明

解剖の種類: 病理解剖 法医解剖 不明, 法医解剖の場合

③ 主な画像所見:
 CT
 頭部: 特記すべきことなし
 胸部: 肺水腫
 腹部: 特記すべきことなし

④ 解剖の結果, その他特記すべき事項 (結果不明の場合は「不明」と明記してください。調査票B1も参照)

司法解剖 調査法(新法)解剖 行政解剖 不明

④ 解剖の有無と結果について、通知がなく当院では分かりません。

別紙参照
 別紙を添付の場合は 調査票B1参照

Aパート： A2 医学的背景

- ① 現在の治療・投薬の有無にかかわらず、何らかの指摘・診断された疾患（先天性疾患、アレルギー疾患、神経筋疾患、悪性腫瘍、発達障害など）を有していた場合、「基礎疾患あり」としてください
- ② 法定健診である3・4ヶ月健診、1歳半健診、3歳健診について、判断してください
- ③ 定期接種の予防接種について、判断してください
- ④ 同居家族・同胞の人数・年齢・既往歴など書いてください

啓発資料「チャイルド・デス・レビューPart2：準備編」
（沼口，山岡，内田，2021/1/19）
より抜粋

Child Death Review 死亡調査票（基本票）
 予防のための子どもの死亡検証

A2. 死亡の医学的背景

年齢/月齢/日齢 歳 月 日 性別 男 女 No.

死亡時の所見
 死亡時体重: kg・不明 外表所見: 特記すべきことなし

基礎疾患 / 既往歴 ①
 基礎疾患の有無: 有 無 不明 基礎疾患のリスク分類 特になし（健常）。
 適切に管理されれば予後に影響は少ない。
 適切に管理されても予後に影響しうる。
 ハイリスクであり、治療可能か不明。
 寿命短縮が明確。

基礎疾患名:

別紙参照 別紙を添付の場合は 医療的ケア: 有 無 不明
 在宅人工呼吸器 在宅酸素療法（常時） 在宅酸素療法（要時）
 経静脈栄養 経管栄養 人工肛門 腹膜透析
 「有」の場合、実施内容に その他（ ）

生育歴
 在胎週数: 週・不明 家族歴（家族構成を含む） ④ 父親(34), 母親(31), 兄(7), 本人(3)の4人家族。特記すべき家族歴なし
 出生体重: g・不明

別紙参照 別紙を添付の場合は ② 健診: ほぼ受診 一部受診 受診歴なし 不明
 ③ 予防接種: ほぼ接種 一部接種 接種歴なし 不明

Aパート： A3 死亡に至った状況

- ① 院外急変とは、医療機関外で以下の状況が生じた場合を指します
 - ・ 予定外受診
 - ・ 緊急通報をした（110/119）
 - ・ その他予期しない状況の変化があった
- ② 個人情報を含めずに、簡潔に記載してください
病名以外の固有名詞（医療機関名など）は含めないでください
- ③ 医療機関についてからのことを、個人情報を含めずに、簡潔に記載してください

啓発資料「チャイルド・デス・レビューPart2：準備編」
（沼口，山岡，内田，2021/1/19）
より抜粋

Child Death Review 死亡調査票（基本票）
予防のための子どもの死亡検証

A3. 死亡に至った状況

年齢/月齢/日齢 歳 月 日 性別 男 女 No.

治療開始までの状況（死亡に間接的に影響した既往等についても併せて記載）

① 院外急変例に該当： する しない 病院に搬送： した しない

死亡(発見)時および治療開始までの状況：

発生（事件が発生した時刻） 17:45頃
 覚知（119に通報した時刻） 17:45
 接触（救急隊が患者を最初にみた時刻） 18:00
 現発（現場を出発した時刻） 18:10
 病着（病院に到着した時刻） 18:20

別紙参照

別紙を添付の場合は

本児が目を離した際に自宅の浴槽に転落したと母親より救急要請。救急隊の接触時には心肺停止で、母親により胸骨圧迫を実施中。救急隊によりCPRが継続され、18:20当院救急外来に到着したときも心静止。

治療経過と検査結果（死因、死亡状況に関する記載者の考察も併せて記載）

- ③ 18:04 救急隊より第一報：
 自宅浴槽で溺水の3歳児，心肺停止状態。蘇生を行いながら当院へ受け入れ要請。
 18:20 救急外来に救急搬送。
 救急隊によって胸骨圧迫と人工呼吸中。心静止。自発呼吸なし。心電図で波形なく平坦。心臓マッサージを当直医に引き継ぎ。
 18:25 点滴確保。各種蘇生薬剤を注射。
 18:30 挿管。気管内より多量の水を吸引。心電図確認し，以後心静止のまま。
 18:50 医師より死亡確認。
 18:55 警察に連絡。
 19:55 CT撮影。特記すべき所見なし。
 遺体を警察へ搬送とされた。

別紙参照

別紙を添付の場合は

書ききれない場合など、別紙を添付してください。

Aパート： A4 死亡後の対応

Child Death Review 死亡調査票 (基本票)
 予防のための子どもの死亡検証

A4. 死亡後のアクション

年齢/月齢/日齢 歳 月 日 性別 男 女 No.

- ① CPTの有無にかかわらず、児童相談所に通告した場合は、通告「した」を選んでください
 通告の前後で、または通告の有無にかかわらず、児に関して問い合わせを行った場合、照会「した」を選んでください
- ② 医療事故の可能性を検討したかどうかを記載してください
- ③ 医療職のみで行った事例検討会、症例報告会、臨床病理検討会などを含みます
- ④ 医師以外の職種（看護・MSW・心理士など）を含む検証、院外の多職種（児童福祉・警察・消防など）を含む検証のいずれも該当します

死亡に関連した各種アクション

警察に通報： した しない

院内CPT*の起動： した しない

通報した場合、その理由： 異状死のため 犯罪であるため 事故であるため

*: CPT (Child Protection Team) = 病院内子ども虐待対応組織

① 児童相談所に通告： <input type="radio"/> した <input checked="" type="radio"/> しない	児童相談所に照会： <input type="radio"/> した <input checked="" type="radio"/> しない
② 医療事故調査制度の対象であるか検討： <input type="radio"/> した <input checked="" type="radio"/> しない	医療事故調査制度の対象として報告： <input type="radio"/> した <input checked="" type="radio"/> しない
③ 院内で医学的な検証： <input type="radio"/> した <input checked="" type="radio"/> しない	各種検証結果 (抄) 調査票B7も参照。 救急隊・病院の症例検討会： 救急隊による蘇生、搬送に問題なし。乳児の気道確保について意見交換。市民への乳幼児蘇生の啓発は効果的に行われている。屋内溺水予防にかかる安全教育は誰が行うか。
④ 院内で多職種検証： <input checked="" type="radio"/> した <input type="radio"/> しない	
その他の検証： <input type="radio"/> した <input checked="" type="radio"/> しない	

別紙参照

別紙を添付の場合は 調査票B7参照

啓発資料「チャイルド・デス・レビューPart2：準備編」
 (沼口, 山岡, 内田, 2021/1/19)
 より抜粋

Aパート： A5 追加情報

- ① その他、記載しておきたいことは
こちらに書いてください

Child Death Review
予防のための子どもの死亡検証

死亡調査票（基本票）

A5. 追加情報 / 自由記載

年齢/月齢/日齢

3 歳
月
日

性別

男 女

No.

3721099

追記事項、コメント、検証されたい事項、懸念事項など

①

啓発資料「チャイルド・デス・
レビューPart2：準備編」
（沼口，山岡，内田，2021/1/19）
より抜粋

課題2：選定

	米国	日本	東京都	愛知県	(平均)
人口 (人)	32,000万	12,600万	1,400万	750万	100万
18歳未満死亡数 (件/年)	37,000	3,794	365	240	30
		(2017-2020の平均)			
人口10万対 (件/年)	11.56	3.01	2.60	3.37	3.01
CDRチーム数	1,350		4 *	4	1
人口/CDRチーム	23.7万		375万	188万	100万
事例数/CDRチーム (件/年)	27.4		92	60	30
50%抽出の場合			46	30	15
25%抽出の場合			23	15	8

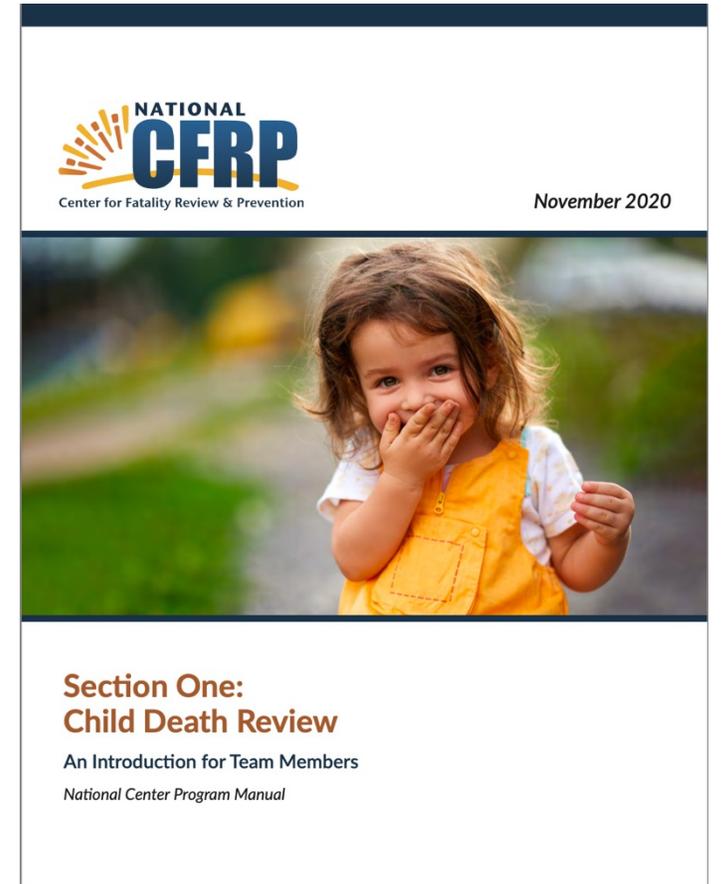
選定



*: 内田先生 (成育医療センター) の提案による

課題2：選定

1. 管轄する地域の死亡数
2. 対象とする年齢
3. 死亡状況と死因
4. 情報の得やすさ
5. 死亡した場所
6. 訴訟中か否か
7. 検証チームの構成メンバー
8. 検証会議の開催頻度



A Program Manual for Child Death Review.
(Ed. Theresa Covington, Valodi Foster, Sara Rich.
The National Center for Child Death Review, 2005)

課題2：選定

1. 虐待死の発見 → 子ども虐待の発見

- ・ 身体虐待 … 外因死・不詳死に紛れやすい
- ・ 精神的虐待, 性的虐待, ネグレクト
… そもそも発見されにくい／刑事罰の対象になりにくい

人口100万あたり
1.5~4件?

2. 外因死の詳細検証 → 子どもの生活環境への介入

- ・ 受傷行動（本人）への介入
- ・ 受傷原因（環境）への介入

人口100万あたり
事故 2.5件
自殺 3件

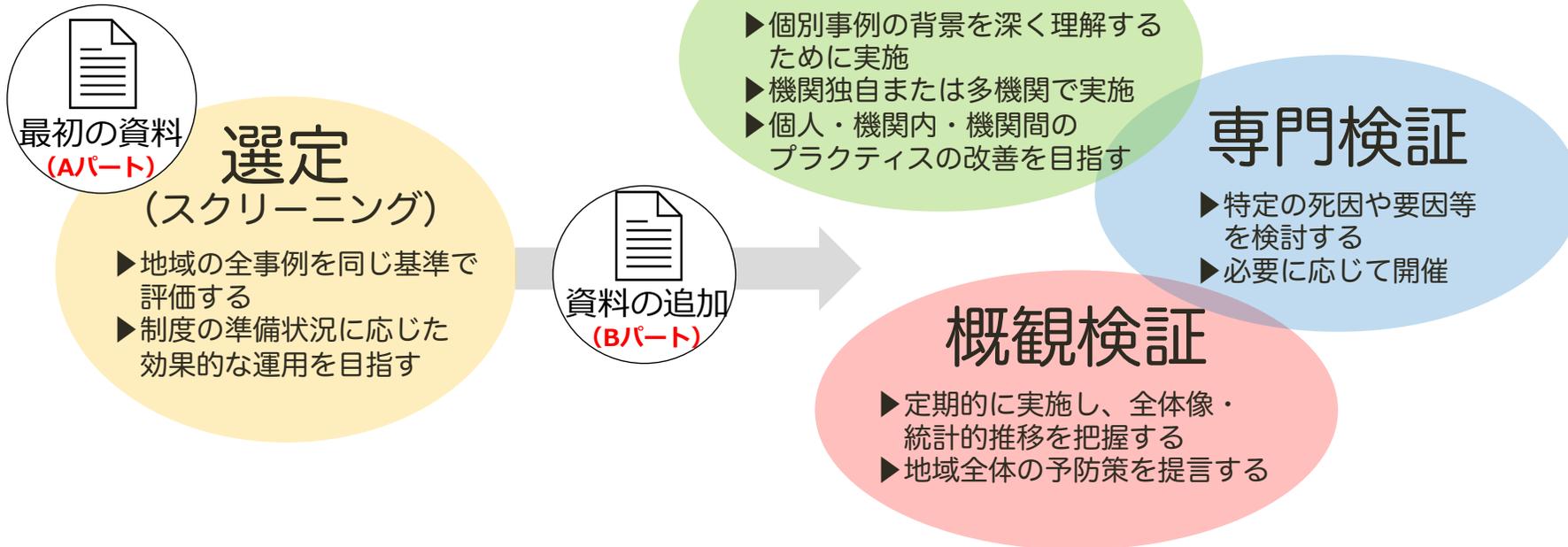
3. 外因死・不詳死のみならず **内因死の究明** → 医療, 同胞への介入

4. 死因のみならず **死亡の周辺事象の解明** → 行政・保健への介入

人口100万あたり
検証すべき内因死
1.5件?

検証全体の構成

- 最初に収集された資料（主に医療機関の情報；死亡調査票 **Aパート**）をもとに、個別検証の対象事例を**選定（スクリーニング）** します。
- 以後の検証等のため情報の追加が必要な場合は、選定の前後で収集します。



ここに示したのは、ひとつの例です。各地域で工夫して実践してください。

課題3：医療機関における死因究明

これまでに提起された2つの大きな課題

A) 関係機関が必要な**情報をそもそも十分に収集できていない**

「児童相談所がしっかり調査できていないのではないか？」

「警察がしっかり捜査できていないのではないか？」



CDRのために最低限必要な調査・捜査は保証される仕組みにしてはどうか？

B) 関係機関が収集した**情報をCDRに十分な形で提供・共有できていない**

「学校が、知っていることを教えてくれない」

「警察が、調べたことを共有してくれない」

「ある民間団体が、知っていることを教えてくれない」



CDRに対して情報を提供しても大丈夫 / しなければならない、としてはどうか？

→関係機関・担当者の「裁量権」を廃する手続化・ルール化, CDRの理念の明確化, 権限や義務の法的根拠

課題3：医療機関における死因究明

これまでに提起された2つの大きな課題

A) 関係機関が必要な**情報をそもそも十分に収集できていない**

「病院等が、しっかり検査していないのではないか？」



必要な / 妥当な検査をしているか が社会から問われる。

B) 関係機関が収集した**情報をCDRに十分な形で提供・共有できていない**

「ある個人が / ある医療機関が、検査結果を公表したくないと言っている」

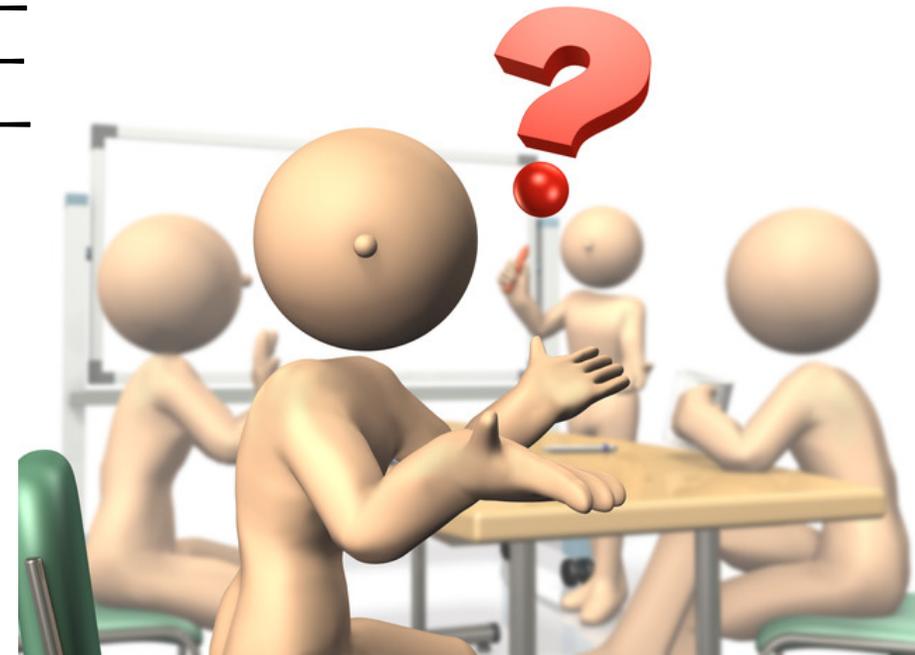


CDRに対する情報公開義務の範囲 も課題である。

→関係機関・担当者の「裁量権」を廃する手続化・ルール化，CDRの理念の明確化，権限や義務の法的根拠

CDR で行われる検証

1. わが国の子どもの死亡
2. CDR (Child Death Review) とは何か
- 3. CDRで行われる検証
4. まとめ



死因究明

予防のための死亡検証

生前からの関与

死亡事象

検査
調査
捜査

①情報収集

②検証

③提言

CDRの
枠組み



個別検証

- ▶ 個別事例の背景を深く理解するために実施
- ▶ 機関独自または多機関で実施
- ▶ 個人・機関内・機関間のプラクティスの改善を目指す

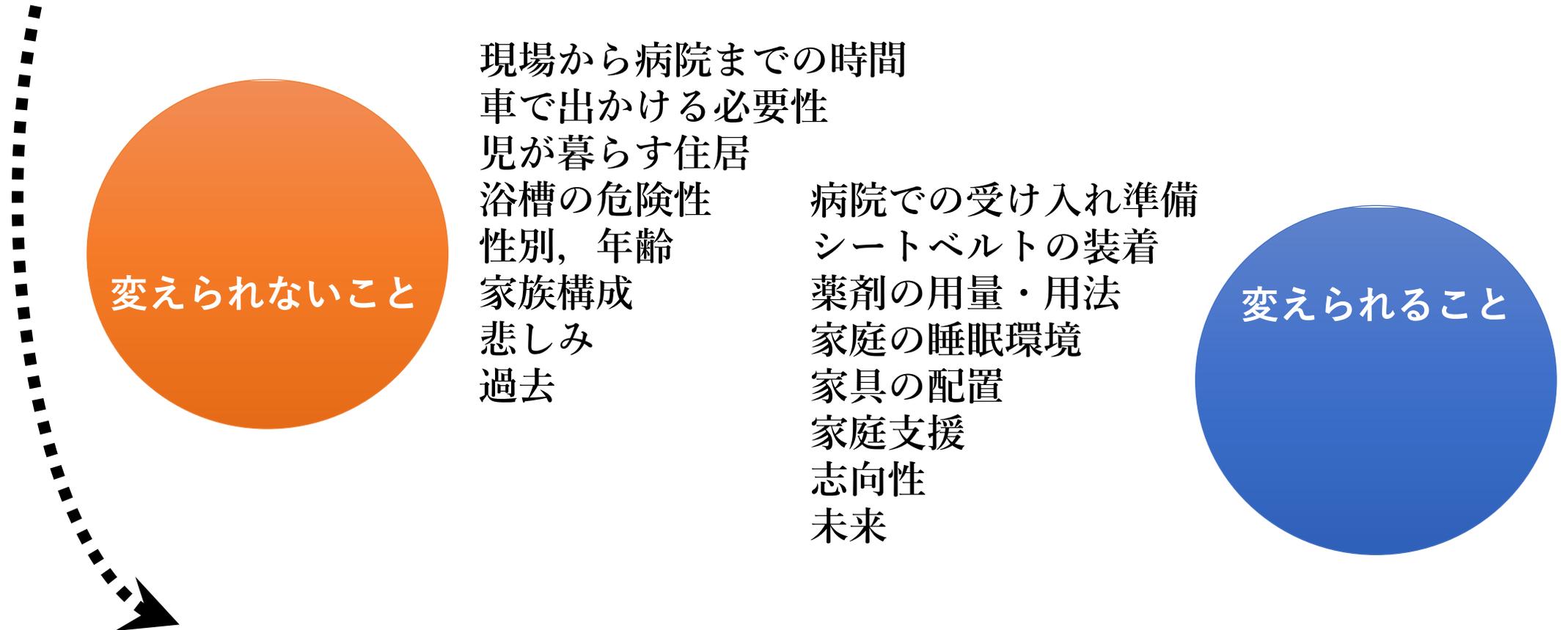
概観検証

- ▶ 定期的実施し、全体像・統計的推移を把握する
- ▶ 地域全体の予防策を提言する

専門検証

- ▶ 特定の死因や要因等を検討する
- ▶ 必要に応じて開催

検証：予防のために“変えられること”を探す



誰がどう“変える”かのアイデア出し

検証

- グラウンドルールの説明
- 各機関から死亡に関する調査結果の説明
- 死亡の直接的・間接的原因に関する検討**
- 死亡に至る経過に存在したリスク要因**
- リスク因子を軽減するための予防策に関して検討
- 検証にあたっての問題点に関して検討

生後6か月男児

死因 乳幼児突然死症候群

発見時 祖母と兄が在宅、うつ伏せ寝、タバコ臭あり

背景 妊婦健診未受診、養育の中心は祖母、
祖母は最近入院歴あり



司会者から具体的な話題を振っている

- グラウンドルールの説明
- 各機関から死亡に関する調査結果の説明**
- 死亡の直接的・間接的原因に関する検討
- 死亡に至る経過に存在したリスク要因
- リスク因子を軽減するための予防策に関して検討
- 検証にあたっての問題点に関して検討

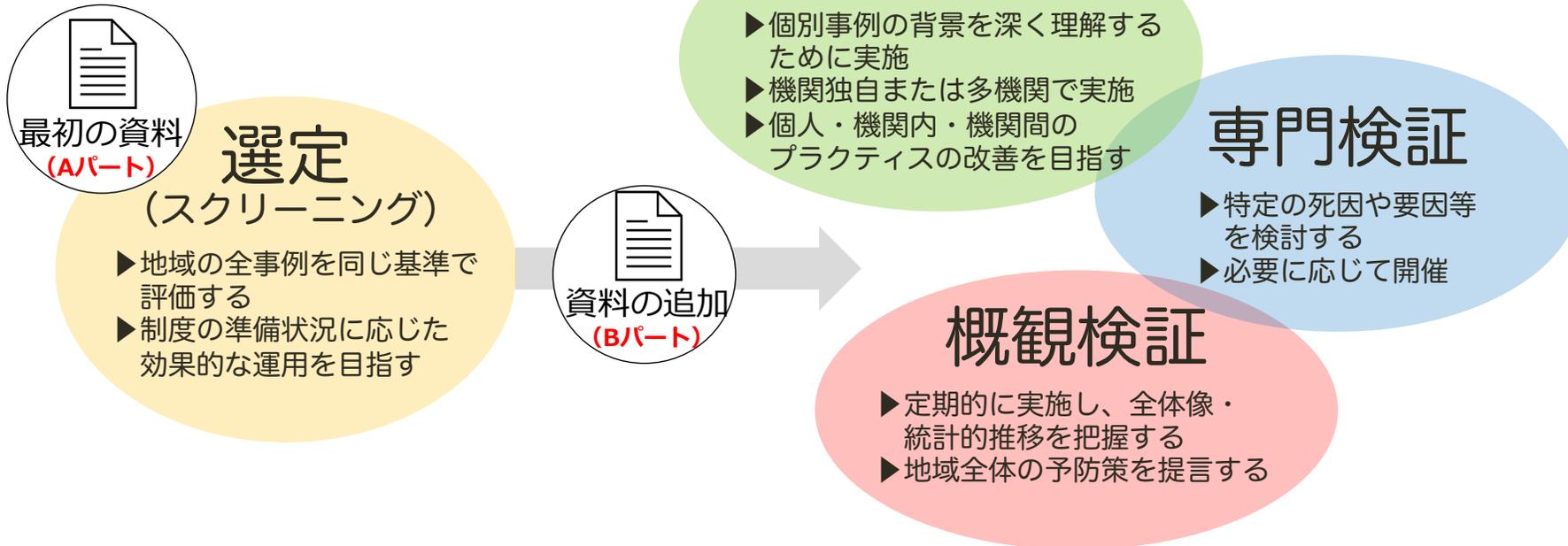


事前の死因に関する医学的検討が不十分で、参加者にとって理解しづらい

教育啓発ビデオ
「予防のための子どもの死亡検証」
(R2厚労科研 沼口班 編)
より抜粋

検証全体の構成

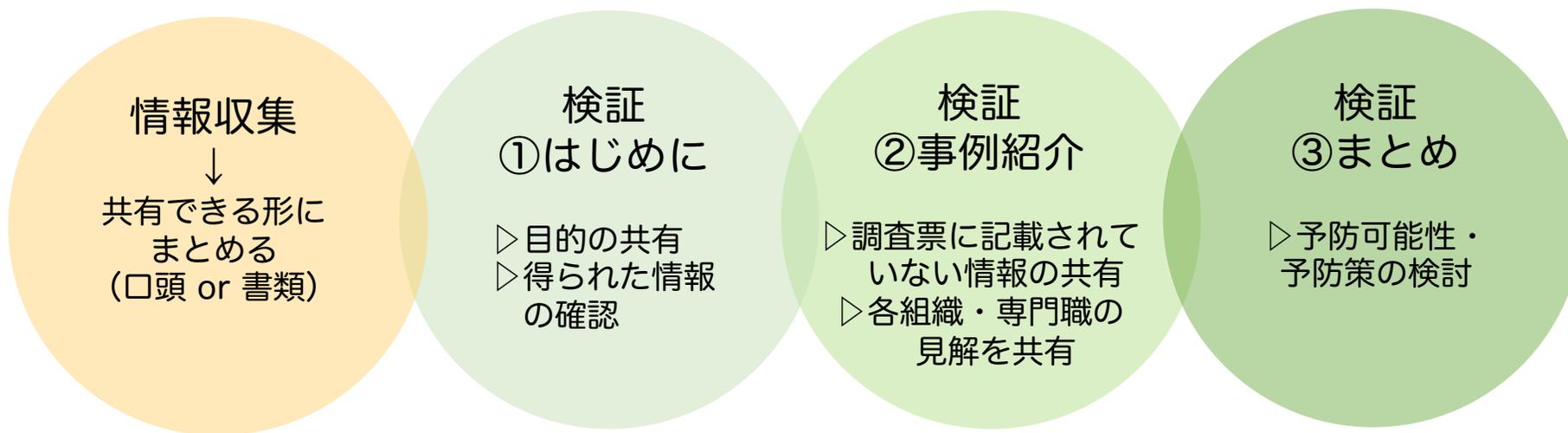
- 最初に収集された資料（主に医療機関の情報；死亡調査票 **Aパート**）をもとに、個別検証の対象事例を**選定（スクリーニング）** します。
- 以後の検証等のため情報の追加が必要な場合は、選定の前後で収集します。



ここに示したのは、ひとつの例です。各地域で工夫して実践してください。

個別検証の流れ

- 情報収集後に多職種で集まり、**個別検証**を行います。
- 直接事例に関わった者で検証する方法や、直接は関係しない者で検証する方法があります。
- 個人情報を抜いた形で、口頭で説明する方法や、サマリー資料を配布する方法などがあります。



啓発資材「チャイルド・デス・レビューPart2：準備編」
(沼口, 山岡, 内田, 2021/1/19)
より一部改変して抜粋



決まったルールなどはありませんので、各地域で工夫して実践してください。

概観検証の例

- 地域の全体像について検証することが、概観検証の目的です。
- 各部門や組織の全体像を把握する立場の参加が好ましいです。

個別検証 の確認

- ▷ 対象外事例の把握
- ▷ 得られた結果を地域に還元する

CDRの実効性 の確認

- ▷ 制度の課題を抽出
- ▷ 提言の実施状況をトラッキング

自地域の 実情評価

- ▷ 既存の各種検証等の実施状況
- ▷ 関係各機関の

他地域との 連携構築

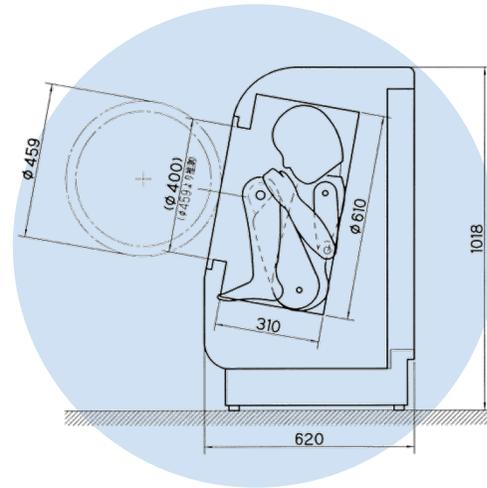
- ▷ 他地域との経験の共有
- ▷ 他地域との比較
- ▷ 中央との連携



決まったルールなどはありませんので、各地域で工夫して実践してください。

専門検証の例

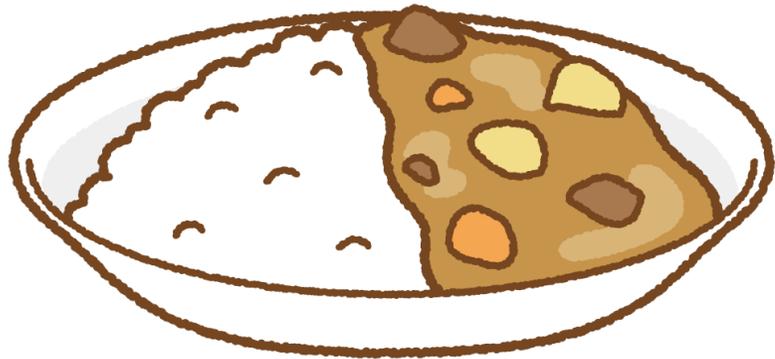
- 解析や予防策の策定に特に高い専門性を要する事例が、**専門検証**の対象です。
- 事例を集めて類似点を探索する、検証の効率を高める、匿名性を担保する等の目的で、**複数地域や複数年度の事例をまとめる**ことも想定されます。
- 専門性の高い有識者の参加や、専門家集団の内部での検証も考えられます。



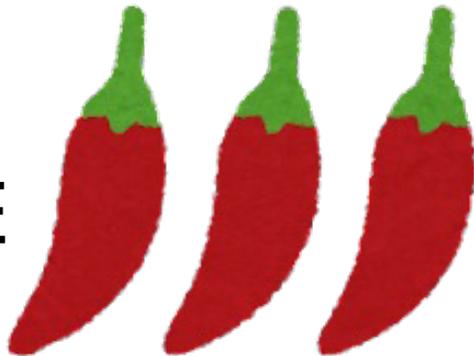
決まったルールなどはありませんので、各地域で工夫して実践してください。

検証

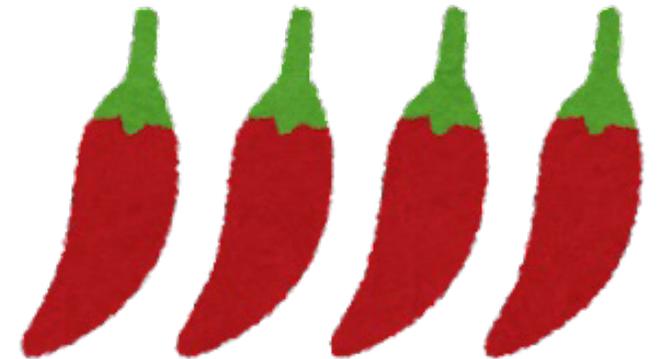
- CDRで多段階の検証を行う。
- 全体像を俯瞰することも大切。



概観検証



個別検証

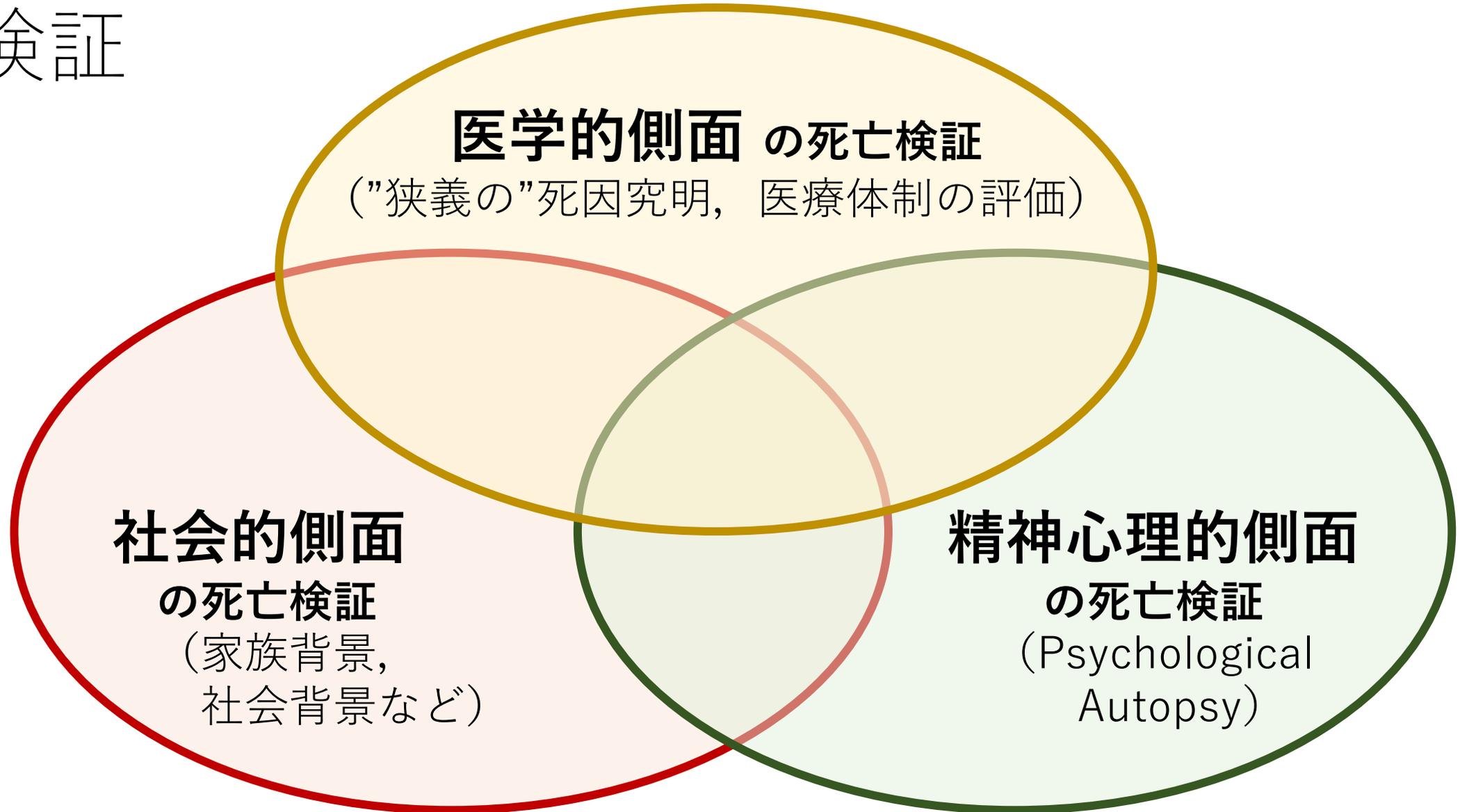


専門検証

選定
(スクリーニング)

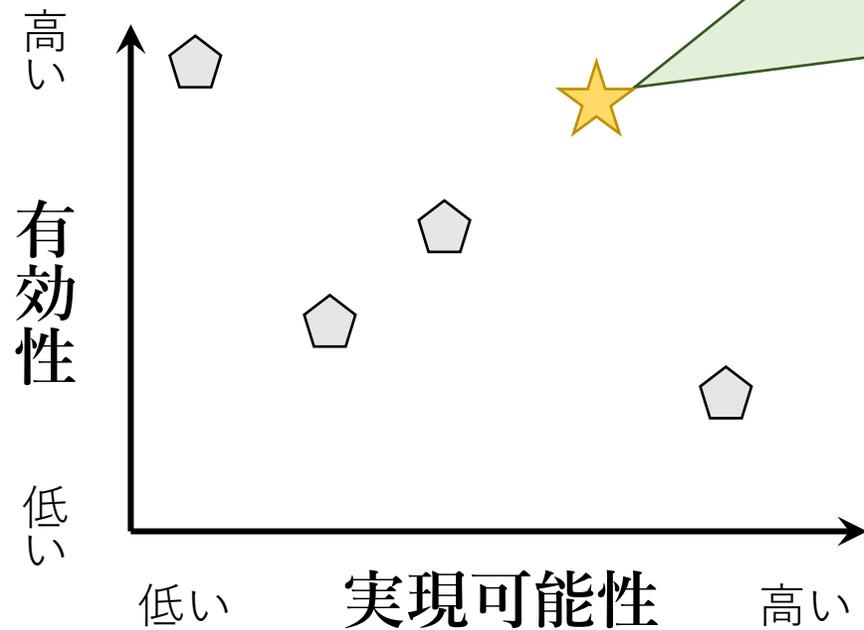


検証



具体的な「提言」とは

- 誰（どの機関/部門/部署）が、
- 何をするか。



- × 負けないように気合を入れる
- 1日100回 腕立て伏せをする

提言

- 行政が、自ら「何を実現するか」宣言する。

三重県, 子どもの死亡, 令和3年度報告

検索



「予防可能な子どもの死亡を減らすための取組に関する提言書」

(三重県ホームページ) より一部抜粋

(https://www.pref.mie.lg.jp/KODOMOK/HP/m0330400026_00004.htm)

<提言3>子どもが、川で安全な環境のもとで水遊びをするための支援の強化

たも網を持ち、ライフジャケットの使用なく、1人で川で遊んでいたところ、溺れて死亡したと推定される事例が数例あった。

- (1)教育現場を始め、地域住民に対し、子どもの見守りが水難事故の予防につながることを広報し、子どもだけで水遊びをしているのを見かけたときは注意喚起をするなどの見守り活動を奨励していただきたい。
- (2)教育従事者に対し、危険な川を認知するため授業において子どもに地域安全マップなどに水難事故が起こりやすい河川をプロットさせるとともに、着衣泳の指導を進めていただきたい。
- (3)教育・福祉従事者に対し、言語の問題などにより地域になじみにくい児童を把握し、対人関係構築のための具体的な支援の枠組みを策定するよう啓発していただきたい。
- (4)教育現場を始め、地域住民に対し、川で水遊びをする時などには、増水時は控え安全器具(ライフジャケット等)を着用するように広く啓発していただきたい。
- (5)国、関係部門に対し、とくにたも網使用上の注意書きとして「12歳以下はライフジャケットを着用することが望ましい」、「子どもだけで水遊びをしない」と表記するなど、安全器具(ライフジャケット等)の装着の義務化に向けての法整備、川遊びの注意事項を広く知らせることが必要であると上申願いたい。

○地域社会及び一般住民に対する子どもの見守り活動の奨励

降雨による増水時を含む川での一人遊びなど、危険が予想される行動を子どもがとっている場合、住民が注意を促すことは危険を回避することにつながる。自主防犯活動団体等によるパトロールにより安全整備されている通学路のみならず、それ以外の場面においても河川での事故を未然に防げる可能性があり、今後も一層見守り体制を強化していく必要がある。

○教育従事者に対する子どもへの川遊びにかける教育

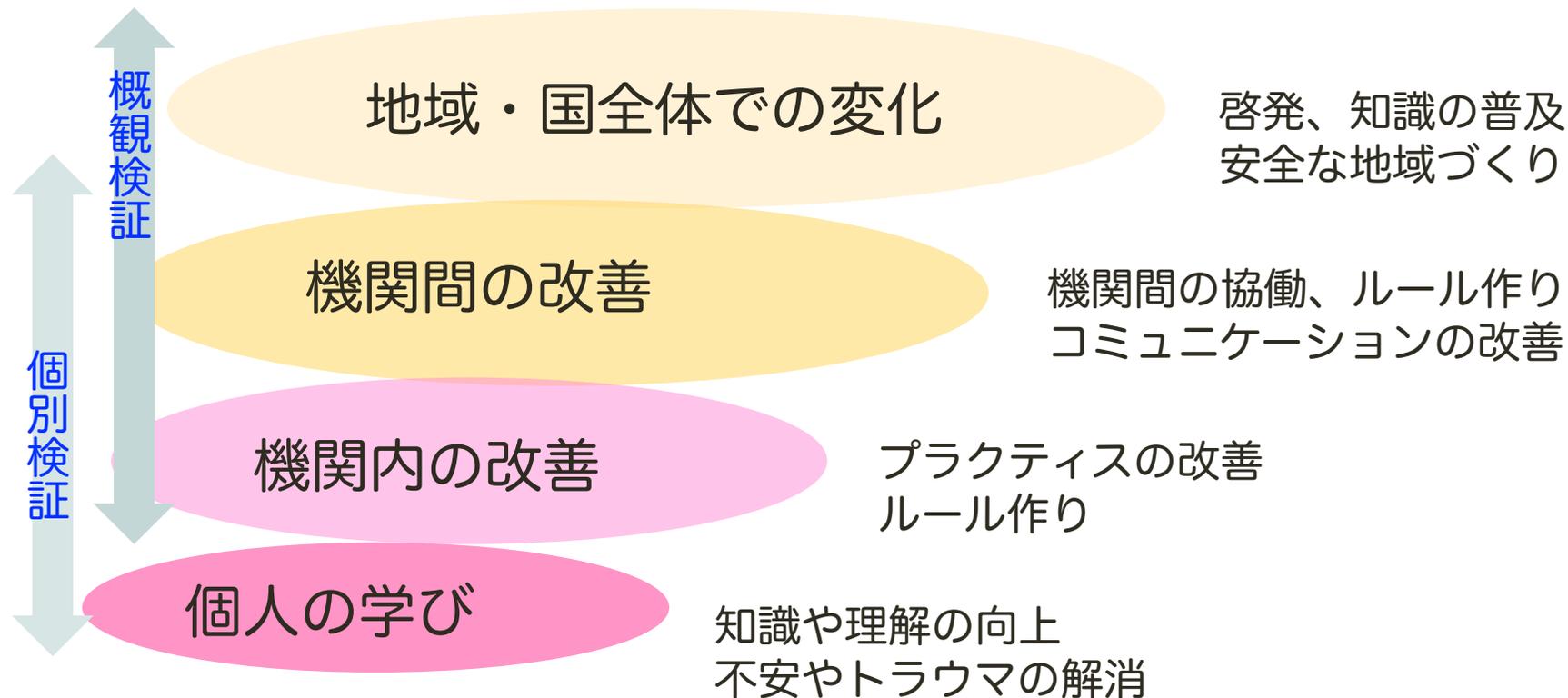
、犯罪・交通事故・災害などが起こりやすい危険が起こりやすい場所を判断する力を

身に付けさせ、危険な場所には近づかないよう意識を育む取組を実施している

予防策の提言について

4-2. 検証の結果望まれること

- 検証後の成果には、様々な段階のものが含まれます。



啓発資材「チャイルド・デス・
レビューPart1：入門編」
(沼口, 山岡, 内田, 2021/1/19)
より抜粋

Part 2: CDR準備編

まとめ

- 予防策を検討するためには、**多面的・多角的な情報を収集すること**が必要となります。
- 調査票で集められた情報は、なるべく**同じ基準で記入していくこと**で、情報の質を担保していく必要があります。
- 多職種で検討する際には、**個人情報**を共有せずに話し合い、また参加者は**機密保持の義務**があります。
- 検討する際には、調査票で集められた以外の情報も**口頭で共有し**、理解を深めることもあります。

啓発資材「チャイルド・デス・レビューPart2：準備編」
(沼口, 山岡, 内田, 2021/1/19)
より抜粋

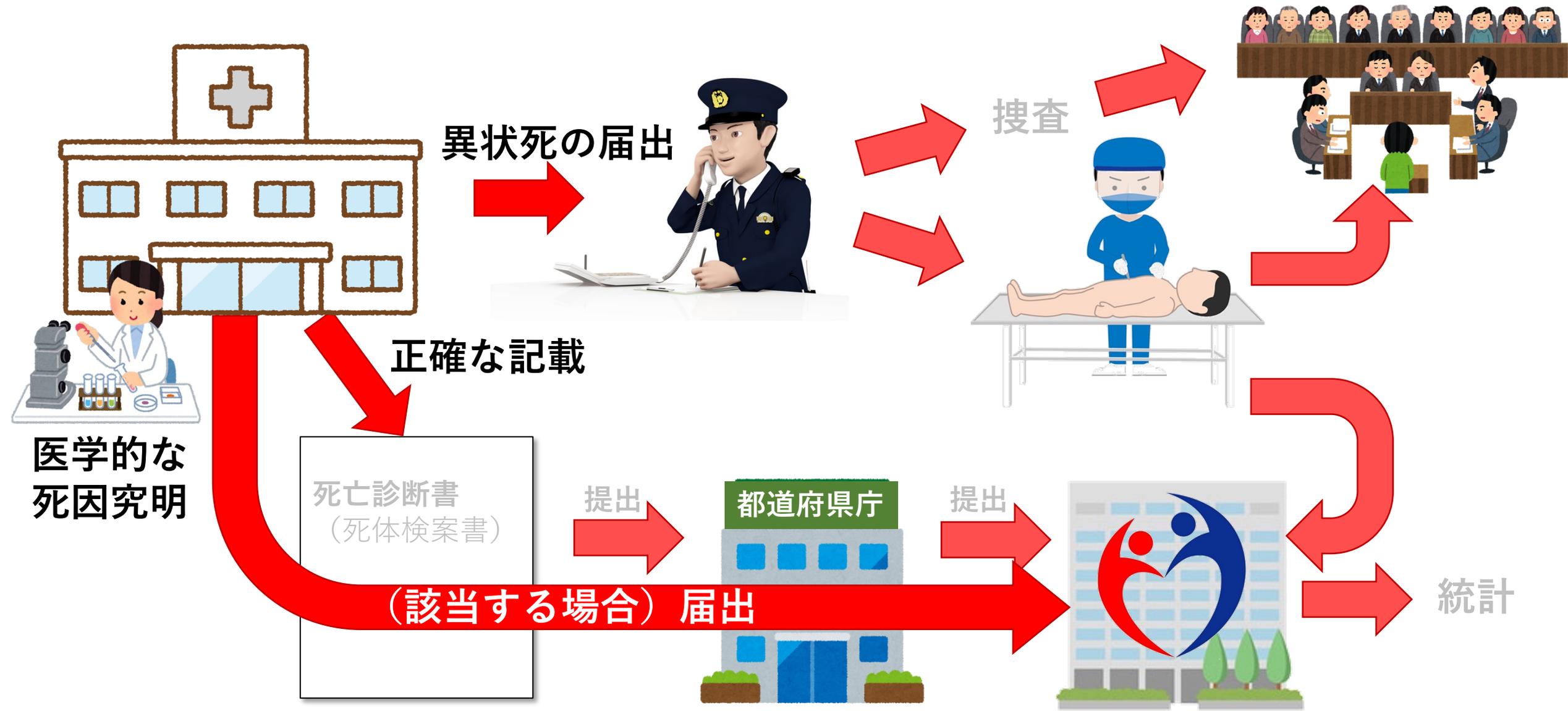
まとめ

1. わが国の子どもの死亡
2. CDR (Child Death Review) とは何か
3. CDRで行われる検証
- ➡ 4. まとめ

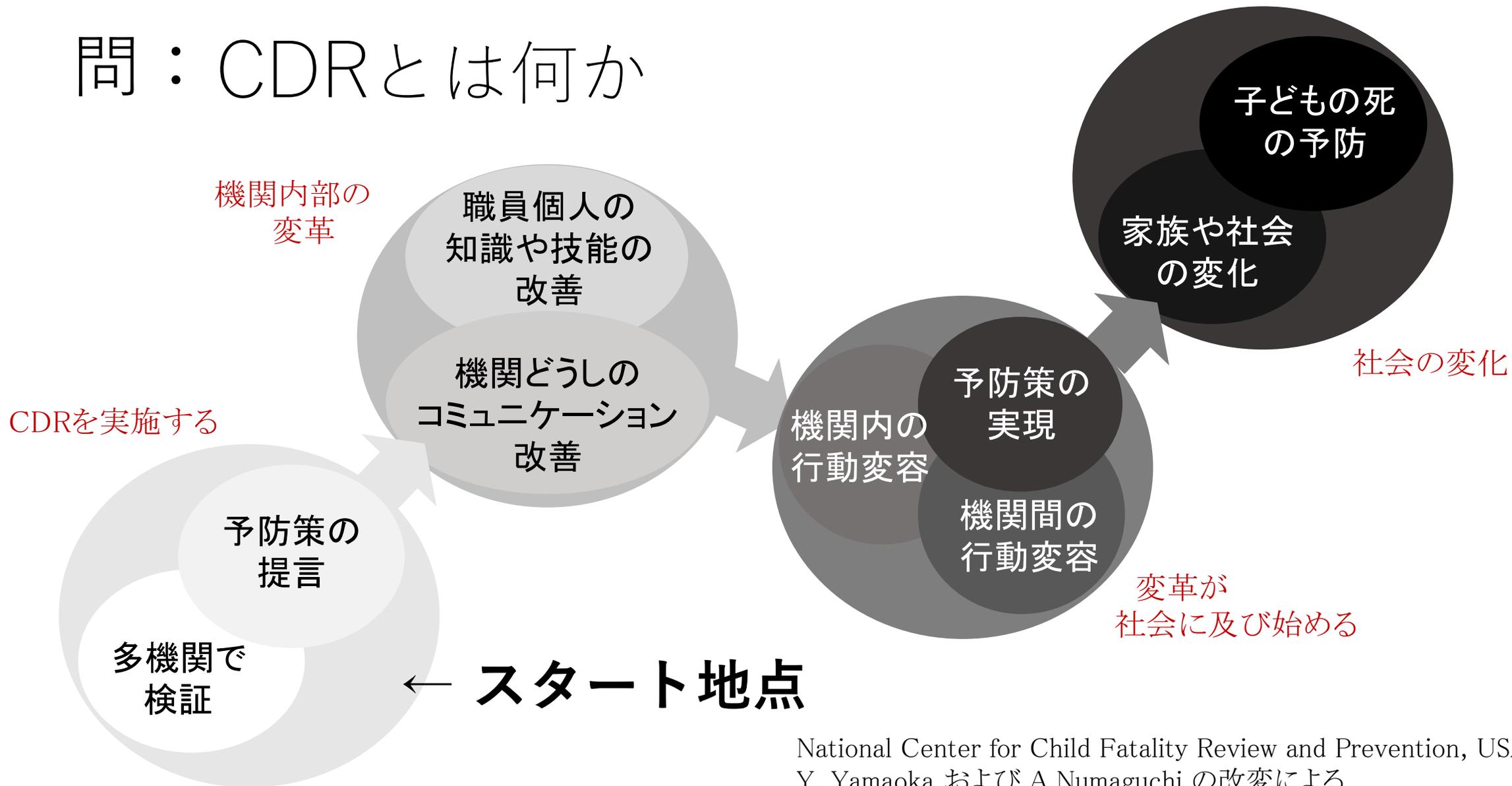


日本小児科学会, 2015

子どもが死亡した時に



問：CDRとは何か



問：CDRとは何か

答：「未来の子どもを救う方法を
今日亡くなった子どもに
聞くこと」

by 小鹿先生（山梨大学）

問：CDRとは何か

答：（まったく個人的な意見です）

子どもの死から私たち全体が学び，成長するための仕組み。

それを許容する，あるいは推進するための考え方や文化。

nummer0116@gmail.com